

# 葦崎工高新聞

10月号

発行所  
葦崎工業高校  
新聞委員会

## 全国高校選抜大会レスリング競技

# 北脇さん 92kg級で準優勝



全国選抜大会に出場したレスリング部員

全国高校選抜大会レスリング競技が10月9日から11日まで、新潟・新潟東総合体育センターで行われた。

本校から団体戦、個人戦3階級に出場し、団体戦が5位入賞、個人戦で92kg級の北脇さん(2年)が準優勝、51kg級の山際航平さん(3年)が3位と輝かしい成績を収めた。(重慶)

競技は団体戦、個人戦とフリースタイルで行われ、団体戦には、山際さんが51kg級、大村幸誠さん(2年)が55kg級、本名一晟さん(2年)が65kg級、鈴木大樹さん(3年)が71kg級、西田衛人さん(3年)が80kg級、北脇さんが125kg級に出場した。団体戦は

「で戦えて良かった」と試合を振り返った。個人戦には入賞した2人の他に、80kg級の西田さんが出場したが、惜しくも3回戦で敗退した。

### 入賞者の喜びの声

○51kg級の山際航平さん  
「高校最後の試合が終わった。最後は優勝したかったが、3位で終わってしまった。しかし、試合を楽しめたので良かった。大学では優勝を目指して頑張っていきたい」

○92kg級の北脇さん  
「感染症の影響によりコンディションを整えるのが難しい中で試合で勝ち進むことができたのは、練習時間を作ってくださった先生方のおかげだと思う。次こそは優勝できるように頑張りたい」

進々決勝で、準優勝した埼玉栄高校(埼玉県)に3-4で惜敗し、5位入賞となった。

部長の鈴木さんは「団体戦優勝を目標に部員一人ひとりが練習を追い込み、悔いが残らないよう試合に臨んだ。部長として約1年が経ち、チームを引っ張ってこれたか分からないが、このチーム

## 葦工祭は体育祭を実施

### 新種目玉入れ、借り物導入

今年の葦工祭は新型コロナウイルス蔓延防止を考慮し、体育祭のみが行われることになった。葦工祭テーマ「青春作つたろう。消えた春はここにある」のもと、11月6日、本校グラウンドで行われる。雨天の場合は、翌週の13日に実施される。翌週の13日に実施される。体育祭の種目は綱引き、8の字縄跳び、リレー、

## 私たちの先生紹介



松木 哲也 先生  
教科・工業科  
(年齢不詳)

今回は2学年、制御工学科の松木哲也先生。先生は本校で3番目に勤務年数が長く、誰にでも優しく、博識かつ面倒見が良い先生。そんな松木先生を紹介する。

— 出身高校は。  
「甲府工業高校の電子科」

— 趣味は何ですか。  
「読書、付箋切り絵、DVDや動画鑑賞、弓」

— もともと民間企業で働いていました。先生という職業は一番やりたくない職業でしたが、高校の時の恩師に勧められました。

## 多くのことに挑戦して欲しい

口説かれ、また私自身も工業高校の出身者として工業高校生にとり張りたてたいという思いが強い先生です。高校時代の恩師に憧れまじりです。

— 昔と今、葦工生の違いは。  
「赴任当初はツッパリも多かったです。アツイ生徒も多かったです。今は頭髪や服装も昔と比べ、きちんとしている生徒が多企業の方々の評判も良いのでこの伝統を引き継いで欲しいです」

— 私たち、生徒に一言お願いします。  
「私自身も工業高校の出身者として、葦工生には必ず期待をしています。ぜひ、卒業式の日に皆さんの自信をもって卒業できるような多くのことに挑戦し、経験(出来事)を増やすを積み上げてほしい」(園手・長林)

## 甘利山強歩大会 距離短縮される

全校生徒による強歩大会が10月30日、午前9時15分、校長先生の号砲で3年生からスタートする。コースは学校を出発して甘利山(約2.1km)、樫池(約1.5km)を回り、男子は樫池往復の約2.1km、女子はポイント8の栗平往復の約1.5kmで、制限時間は5時間45分となっている。

例年の強歩大会と異なる点は新型コロナウイルス感染症の予防に努めて欲しい。強歩大会の翌週なので準備運動や体調管理に心掛けて欲しい」と話していた。(柳澤)

新型コロナウイルス感染症の予防に努めて欲しい。強歩大会の翌週なので準備運動や体調管理に心掛けて欲しい」と話していた。(柳澤)

## ニラテク

今、新型コロナウイルスの第3波が心配されている。3月から長い自粛生活を過ごし、例年より大きく遅れて、高校生活がスタートした▼期間中は、外出することもあまりできず、つまらない日々を送っていた人も多かったはずだ。私自身、外に出られないことへの辛さがあった▼しかし、家に居ても楽しめる方法があった。そのお陰で、辛いはずの自粛生活も笑顔で過ごすことができた。

どうして、退屈な毎日を笑顔で乗り切ることができたのか▼そこには、「すとぷり」という存在が大きく関わっていた。「すとぷり」は、今、中高生を中心に人気を集めている6人エンタメユニット。インターネット上で、楽曲・動画配信を行っている。コロナウイルスの影響で開催はできなかったが、東京ドームやナゴヤドームでのライブも予定されるほどの人気▼メンバーそれぞれがいろいろなジャンルに挑戦し、動画・生放送を中心にたくさん笑顔を届けている。今まで「すとぷり」を通して、たくさん元気をもらい、多くの壁を乗り越えてきた▼コロナウイルスの収束はいつになるのかわからない。皆さんも密を避け、自分なりの家で過ごす方法を身につけてみてはどうだろうか。(坂本)

# あなたは何を実践している？

## コロナ対策「新しい生活様式」

山梨県の新型コロナウイルス感染者は202人（10月26日現在）。全国最多の東京は毎日1000人を超える人が感染している。依然として感染者数は減らず、収束の見通しはたっていない。Go To トラベル、Go To イートと、今やコロナウイルスと共生していくための新しい生活様式が求められてきている。

では、新しい生活様式とは？厚生労働省から出されている「新しい生活様式」実践例をもとに、荏工生100人にどのようなことを実践しているかについて、アンケートを行った。特に、実践例の(1)一人ひとりの基本的感染対策、(2)日常生活を営む上での基本的感染対策、(3)日常生活の各場面別の生活様式の3項目について聞いてみた。

(今村)

## 期間中の事故は7件

### 交通事故・違反「0」3カ月終わる

交通事故・違反「0」3カ月連動が7月1日から9月30日までの3カ月

で行われ、大きな事故もなく終わった。毎年、生徒の安全、交通ルールの再確認を行うとともに、事故・違反の撲滅を目指して行われている。

本校における期間中の事故件数は7件。事故の内訳は自転車事故が5件、原付バイク事故が1件、自動車同乗中の事故が1件。怪我の状況は、自転車は主に捻挫・打撲が多く、原付バイクは打撲・骨折、同乗中は打撲であった。

期間中の事故で一番多かったのが自転車事故で、8月が多かった。昨年の期間中の事故件数は4件で、3件増加した。

生徒指導部の橋本一先生は「最近、登下校時の交通事故が多発している。車や人が来ない『だろう運転』ではなく、もしかしら車や人が来る『かもしれない運転』を常に心がけて欲しい。私は事故を起こさない、私は大丈夫と思っても思っただけでは違反や事故はなくなる。いつでもどこでも危険はあると思いい、交通ルールをしっかり守り、事故・違反0を目指し、一人ひとりが安全に対して更に意識を高めて欲しい」と注意を呼び掛けた。

(小泉)

### マスクの着用

#### 8割強が行う

「一人ひとりの基本的感染対策」については、「マスクの着用」を行っている人が85%、「帰宅後は手や顔を洗う」は80%でかなりの人が行っていた。「石けんを30秒ほど洗いをする」「感染が拡大している地域への移動を控える」「感染状況に注意する」は7割が

行っていた。しかし、「発症したためにマスクを取る、接触確認アプリの活用」は26%と2割強の生徒が行っていないことが分かった。

### 身体的距離の確保

#### 36%とやや低い

「日常生活を営む上での基本的感染対策」については、「手洗い、消毒」が82%と一番多く行っていた。次に「毎日の体温

測定、健康チェック」が72%、「3密の回避」が66%であった。「咳エチケットの徹底」「こまめに換気」「一人ひとりの健康状態に応じた生活習慣の実行」は5割であった。一番低かったのは「身体的距離の確保」で36%であった。学校生活を考えると、友人との身体的距離を確保しての生活は、なかなか難しいと考えられる。

### 接触確認アプリ利用者28%と低迷

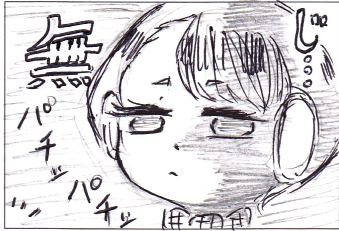
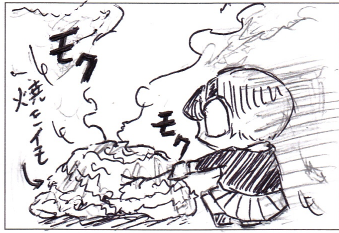
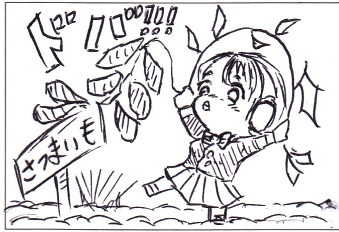
「日常生活の各場面の生活様式」については、特に買い物において、「1回をまとめて買っている事は」に並ぶときは「スーパーをやる」で69%、「少人数で買い物に行く」や「計画的な購入」については5割であった。また、生徒の半数が電車通学を

していることもあり、多くの生徒がSuicaといった電子決済を利用している。「交通機関利用時の会話について控えている」は5割強であった。また、イベント等の参加については、「発熱や風邪の症状がある場合は参加しない」が65%であった。厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ(略称COCOA)の利用については、低く28%であった。

### 県内感染者は4割が20、30代

県内感染者の年齢層は20、30代が全体の4割を占めていて、20歳未満は11人とわずかである(10月14日付の山梨日日新聞より)。しかし、ごで感染してしまうかは、分

## 食欲の秋子さん



20本目

### 「新しい生活様式」の実践例

(1)一人ひとりの基本的感染対策

- 感染防止の生活様式: ①身体的距離の確保、マスクの着用、②手洗い
- マスクの着用: ①外出時、公共交通機関利用時、②人混み、密集場所、③咳エチケット、④換気
- 手洗いの徹底: ①帰宅後、②食事の前、③トイレの後、④咳やくしゃみをした後
- 咳エチケット: ①マスクを着用し、②咳やくしゃみは肘の内側またはティッシュペーパーで拭く
- 換気: ①窓を開け、②換気扇を利用

(2)日常生活を営む上での基本的感染対策

- 体温測定: ①毎朝、②入浴後
- 健康チェック: ①体調不良を感じた場合、②発熱、③咳、④呼吸困難、⑤喉の痛み、⑥味覚・嗅覚の喪失
- 身体的距離の確保: ①人混み、密集場所を避ける、②必要時はマスクを着用
- 換気: ①窓を開け、②換気扇を利用

(3)日常生活の各場面別の生活様式

- 買い物: ①必要最低限の買い物、②公共交通機関の利用、③現金決済の控える
- 食事: ①家族以外との食卓を減らす、②食卓を減らす、③必要最低限の食卓を減らす
- 通学: ①公共交通機関の利用、②徒歩での通学、③必要最低限の通学
- 通学: ①公共交通機関の利用、②徒歩での通学、③必要最低限の通学

(4)働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務: ①在宅勤務、②交代勤務
- テレワーク: ①在宅勤務、②交代勤務
- ローテーション勤務: ①在宅勤務、②交代勤務

「新しい生活様式」の実践例  
(厚生労働省のホームページより)

からないのが現状である。新型コロナウイルス感染対策には人と身体的距離をとり、接触を減らし、マスク着用、手洗いを、一人ひとりの心がけが大切である。日常生活の中で「新しい生活様式」を取り入れることは、自分自身のみならず、家族や友人など、周りの人の命を守ることにつながるのではないだろうか。

## 芸術の秋 今 文化部が熱い!

運動部に負けず劣らず頑張っている文化部を紹介します!

### 写真部



藤原奈々 (3年)

「約40人の部員で活動をしています。芸文祭では団体優勝を目標に、今それぞれが写真撮影に励んでいます。部員の数が多く、細かい指導はできませんが、団体優勝に向けてみんなで頑張っています」

### 茶道部



服部 黎 (3年)

「目標はお点前を通しておもてなしの心を養い、礼儀作法を身につけることです。今年の芸文祭のお茶席は中止になりましたが、部長として全員が目標を持って取り組める部員にしたいです」

### 将棋部



岳田 輝介 (3年)

「月・水・木曜日の限られた時間で少しでも成長できるように日々、活動しています。全員が自分の力が活かせる戦術を研究しながら、お互いに切磋琢磨できる部活を目指しています」

### 太鼓部



黒沢 兎之介 (3年)

「今年で創部20年目を迎えます。去年の芸文祭では悔いも位でした。今年は1位に返り咲き、来年の和歌山総文祭へ出場できるように頑張ります」

### 吹奏楽部



折居 和羽 (3年)

「部員数8人と少ない人数ではありますが、毎日切磋琢磨しながら活動をしています。演奏する機会として月一度のロビーコンサートを実施しているので、ぜひ見に来てく

### 編集後記

今まで3年生を中心に新聞を作ってきましたが、10月号からは1、2年生で作ることになりました。アンケートをまとめるのが大変でしたが、先生も手伝ってくれたので、楽しく作ることができました。今年の目標は昨年同様、芸文祭で1位になることです。皆さんに良い報告ができると思います。(今村)

### 編集担当

- 記事担当: 今村好世、長林寛弥、壺屋瑠希(2年)、坂本優良、小泉魁翔、柳澤虎次郎(1年)
- 四コマ漫画担当: 横山誠人(2年)
- パソコン担当: パソコン担当
- 写真協力: 藤原奈々、山崎秀太(3年)
- アンケート担当: 新聞委員全員
- 写真協力: 奥石浩明先生